

1 生徒の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

R2入学 現3年生	国語			数学			理科		
	1年時	2年時	3年時	1年時	2年時	3年時	1年時	2年時	3年時
	県 (12月)	県 (12月)	全国 (4月)	県 (12月)	県 (12月)	全国 (4月)	県 (12月)	県 (12月)	全国 (4月)
	59.5 (0.95)	69 (1.04)	63 (0.92)	48.8 (0.87)	47.4 (0.92)	42 (0.89)	54.2 (0.92)	52.4 (0.97)	42 (0.87)
R4正答率の全国比			0.91		0.81		0.85		

◎1・2年時は佐賀県学習状況調査、3年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎「令和4年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【国語】

・「情報の扱い方に関する事項」及び「書くこと」については、県及び全国平均正答率を上回っており、「我が国の言語文化に関する事項」については県及び全国平均正答率とほぼ同程度であるが、他の事項等については県及び全国平均を下回っており、今後も国語で正確に理解し適切に表現する力の向上を図る必要がある。

・各設問において、「文脈に即して漢字を正しく書くこと」を問う設問及び「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くこと」を問う設問については、県・全国平均を上回っている。

【数学】

・「データの活用」の領域は県及び全国平均正答率とほぼ同程度であるが、他の「数と式」「図形」「関数」の領域は県及び全国平均を下回っており、基本的な知識・技能の定着及び数学的な見方・考え方の育成を図る必要がある。

・各設問において、「連立方程式を解く」設問及び「箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができるかどうか」を問う設問については、県及び全国平均を上回っている。

【理科】

・「エネルギー」を柱とする領域については、県及び全国平均正答率とほぼ同程度であるが、「粒子」「生命」「地球」を柱とする領域については県及び全国平均正答率を下回っており、観察・実験等を行うことを通して、基本的な知識・技能の定着及び思考力・判断力・表現力の育成を図る必要がある。

・各設問において、「気圧に関する知識・技能」を問う設問については、県及び全国平均を上回っている。

【意識調査】

・「国語、数学、理科の授業の内容はよく分かる」と肯定的に回答した生徒の割合は、県及び全国平均を上回っているが、家庭学習を毎日2時間以上していると回答した生徒の割合は、県及び全国平均を下回っていることから、授業改善及び家庭学習の時間・内容を充実させ、生徒一人一人の学力の向上を図る必要がある。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

・北方中授業スタイルである「授業の振り返りを生徒が説明する授業」「話し合う目的が明確な授業」を推進し、生徒が見通しを持って学習に取り組みやすくするとともに、生徒が学びを振り返りやすい授業づくりを行う。

・ICTを活用した授業改善を推進し、生徒一人一人の状況に応じた指導の充実を図る。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

・「授業と家庭学習をつなぐ『前進ノートA』」及び「家庭学習の定着を図る『前進ノートB』」の取組の充実を図る。

・昨年度から家庭と連携して推進している「810作戦」の取組を徹底し、よりよい生活リズム及び家庭学習の定着を図る。